

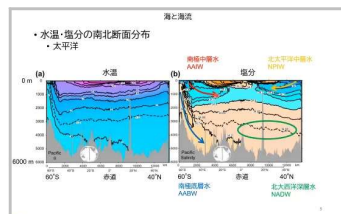
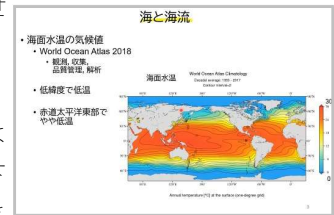
海と海流のはなし



6月4日（水曜日）、第2回のチャレンジ講座が実施されました。今回は理工学部
の西垣肇先生に「海と海流のはなし」というテーマで講義をしていただきました。

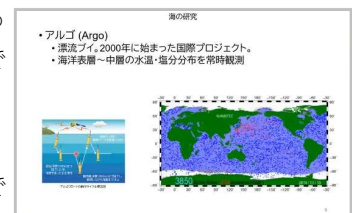
初めに、海水温や塩分濃度と水深との関係性についてお話しいただきました。
海水温は「低緯度ほど高く」、「高緯度ほど低い」傾向にあり、さらには同じ太平
洋でも西側と東側で温度に差があります。このような海水温の違いは世
界の気候にも影響を与えるとのことでした。

また、塩分濃度にも差がみられ亜熱帯では高く赤道や高緯度地域では
低いそうです。差が出る理由としては、雨が降ることによる濃度の低下
と蒸発することによる濃度の上昇が主な原因であり、これも気候と関係

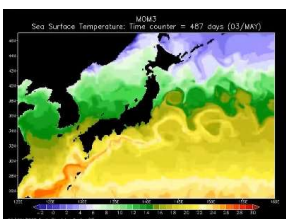


するとのことでした。また、塩分濃度が高い、つまり密度が高い方が重く
沈みやすいので、水深と濃度の関係を見ることで海水の動きの手掛かり
になるということでした。

次に、海の研究手法についてお話しいただきました。海洋の計測には
音波を用いた方法や人工衛星を用いた計測など、様々な技術が用いられ
ていることがわかりました。また、海流の様子を数式の計算で表現する
ことができ、コンピュータを用いた膨大な計算により海の動きを予測で
きるそうです。



最後に海洋学の目的は海洋の現象を知る・理解する・予測すること
であり、観測・理論・実験の三者を連携させながら研究をしているとい
う話で講義は終了しました。



今回の講座では23校306名の高校生がオンラインで参加しました。感想の
一部を紹介します。

○今回この講座を受けてみて普段の学習では知れないことを知れたのでとて
も良かったです。私たちが普段生活している中で、何気なく情報としてあ
るものがこういった方達のおかげで手に入れていると考えますすごいことをなさっているな
と思いました。しかも最後にはこれからの私たちがこういった姿勢で授業や学習に取り組むべき
なのかも教えて頂いたのでこのことを頭に入れながら今後の学習を頑張っていきたいと思いま
した。

○大学に行ったらこんなに一つのことに詳しく研究できるのかと驚きました。海水が深いと
ころから浅いところで入れ替わるのに1500年もかかることや、海は全部塩分濃度が一緒だと思
っていたので、塩分濃度や海流から海水の動きがわかることにも驚きました。また、努力するだ
けじゃなくて、興味を持って楽しみながら物事に取り組んで行きたいと思いました。ありがとう
ございました。

今回の記事（講義概要）は、大分豊府高校が担当しました。